

社会民主主義 フォーラム

全国 通信

No. 47

2023年
6月7日

〒102-0083

東京都千代田区麹町1-6-9

DIK麹町ビル704号室

TEL : 03-6272-8135

FAX : 03-6272-8136

Mail : forum-cho@iaa.itkeeper.ne.jp

地域組織を強化し総選挙準備を急ごう

6月3日（土）午後、東京・中野サンプラザで第3回総会を開催しました。当日は台風による大雨のなか、オンラインを含め15県から55人が参加し、総選挙をはじめ当面する活動を意思統一しました。総会に引き続き、JAMの安河内賢弘会長が「大転換となる歴史的春闘」と題して記念講演を行いました。

議長挨拶／東京・羽田圭二世田谷区議

7期目の当選果たした。東京では立憲は145名立候補し123名が当選。合流したメンバーは全員当選し、引退した議員もしっかり立憲に議席を引き継げた。全体的には維新が伸びた。総選挙も控えており、「閉塞感」「改革」などの観点から議論が必要ではないか。

吉田忠智代表挨拶



補欠選挙では権力と財力の前に341票差で敗北した。しかし頑張ればがっぷり四つのたたかいができる、立憲は期待されていると実感した。原発再稼働や新增設など岸田政権は安倍、菅政権よりたちの悪い政権だ。6月解散の可能性は五分五分の状況。立憲は皆の願いに応えられていないが、それだけにフォーラムに結集する私たちの役割と責任が問われている。

高田良徳代表挨拶

被災3県の自治体選挙、ぜひ勝利へ。今回の総会で代表を下りることになった。2年余り皆さんに支えていただき感謝している。結成以来立憲の組織形態に右往左往しながら取り組んできた。社民党時代はいろいろな国民運動を取り組んできたが、なかなか党に持ち込めずジレンマを抱えている。しかし「持ち込んでいく」ということを意識し続けて頑張ることが必要だ。



国会報告／吉川はじめ衆院議員



会期末まで2週間余り。対決法案は参議院で審議され入管法や財源確保法が大きな山場を迎える。解散総選挙はサミット直後は確実に7月と言われていたが、息子の問題や公明党との関係など「遠のいた」との見立ても。しかし先日の子ども子育ての上積みなど、ひょっとして一気に解散への憶測も生まれている。

維新との共闘は終了した。統一選前に合意していた4つの議員立法は責任もってやるが、それ以外について

では解消ということだ。しかしその一つである給特法廃止について維新は最後の段階で乗れないと言ってきた。まさに「ちゃぶ台返し」だ。

総選挙では野党第一党としてしっかりと候補者を立てるべきという議論を踏まえ、150から200に擁立目標を引き上げて各地で擁立が進んでいる。元毎日新聞記者の尾中さんは、「野党第一党である以上単独でもたたかい抜く覚悟が必要だ」と寄稿している。その通りであって歴史に残る大接戦でも勝たなければだめ。次回は必ず小選挙区で勝ち抜く決意だ。



■森 裕行（香川）

行政区単位に任意の党支部を作った。政党として国民運動に関わっておらず旧社民グループが頑張っている。総選挙では5千件の企業訪問をしたが、主力は労働組合であり今後もしっかりと関係を築いていく。これらが党全体の取り組みになるよう努力している。

■村石 篤（富山）

立憲議員はほぼフォーラムのメンバー。県議選では富山1区は絶対に負けられないと頑張り投票率は下がったが得票は増えた。以前議員を持っていた労組が頑張ってくれた。総選挙では1区に山さんを擁立する。2年後の富山市議選では3人を4人へと増やしたい。

■阿部浩子（東京）

今回の特徴は維新が躍進したこと、立憲は女性が健闘したこと、しかし現職は苦戦（落選）したこと。SNSなど活発な候補者が当選している。事前から露出

度が高い方が選挙でも良い結果となっている。メンバーは高齢化しており若い方を集める努力をしたい。



■奥迫 敏（島根）

党は各市に任意の支部組織を作った。フォーラムも若い人の組織化が問われ、支部単位での集まりを活発にしていけることが必要。東部地域では原発、西部地域では米軍低空飛行、私の地域ではバス路線廃止などの課題。「交流」と「若い人」を重視して頑張る。

■満行潤一（宮崎）

24年前に吉田忠智さんと一緒に県議になった。補選の結果は残念。党の組織体制はやはりいびつだ。財政的支援もない。議員の有無に限らず総支部を作ろうと提起。自治体選でも組織を持たない候補者は負けている。地方議員を作り総支部体制を強化していく。

■斉藤憲雄（青森）

立憲空白地域にフォーラム議員を配置しようと努力。SNS活用など今後の課題。立憲への不満も聞かれ、枝野前代表を呼んで安保問題の学習会を開催。自治体議員をどう増やしていくか。5・3憲法意見広告に取り組んだ。総選挙に勝つには野党共闘しかない。

■兼古博行（千葉）

県会議員で初当選した方がフォーラムに入会するなど成果があった。他方フォーラムメンバーは全員当選できたが「10期目75才」という現実には課題が残る。元々の立憲メンバーとの活動を重視するため新聞意見広告やメーデー激励行動に取り組んできた。

■石塚忠教（福島）

県議選は7カ月遅れでこれからが自治体選挙の本番。会津では統一選挙として行われ喜多方、南会津で二人が当選した。JPや情報労連などあらたな労組の支援が特徴的だ。小選挙区が5から4に減少。自治体選と国政選挙をしっかりと連携してたたかっていく。

■田山英次（宮城）

東北全体では県議が2議席増。大衆運動はフォーラムが継承し活動してきた。来月の仙台市議選では立憲は14人擁立（2会派に分かれフォーラム系は5人）するが、他党も現職はほぼ全員立候補。これに維新な

ど加わり激戦となる。女性新人含めて全員当選を。

■大河内俊雄（静岡）

原発問題でフォーラム県議候補は連合推薦はずされたが、得票を増やして見事当選し、知事与党で1議席増となった。党との関係はまだこれから。党県連大会には代議員として自分が参加する。7月の総会には国政報告をかねて小山展弘衆院議員に来てもらう。

■飯田正美（茨城）

フォーラム候補者は鹿嶋市で当選。前は最下位に近かったが今回は情報労連、運輸労連、私鉄から新たに支援を得て中位で当選できた。党の組織活動で少し前進したのは全総支部で「全党員集会」を開いたこと。交流の場となっており今後とも続けていきたい。

■徳光清孝（佐賀）

メンバーは現有議席を守った。行政区ごとの支部がないとやはり活動ができないと、「支部作りが急務」と県連の総括文書には書かれている。交流と活動が少しづつ動き出した。県民に見える形で活動を進めようと、県政への「制度政策要求書」を初めて提出した。

閉会挨拶／井加田まり副代表

労組との関係など移行のスケールメリットは実感してきたが、議員政党としての問題に直面してきた。私たちの運動をどれだけ持ち込めているか主体性が問われる。地方で議員を作ること、地域の活動拠点を作ること、こうした問題意識を共有し活動を進めよう。



総会で選出された役員は以下の通りです

- 顧問／又市征治
- 代表／吉田忠智（再）、羽田圭二（新・東京・世田谷区議会議員）
- 代表代行／吉川はじめ（新 衆院議員）
- 副代表／井加田まり（再）、石田寛（新・秋田県議会議員）
- 事務局長／中川直人（再）
- 事務局次長／仙葉久（再）
- 運営委員／田山英次（再・東日本）、阿部浩子（新・東京・港区議会議員）、守永信幸（再・西日本）、横田昌三（再・立憲本部）、矢野敦子（再・立憲本部）
- 会計監査／浅田保雄（再）